

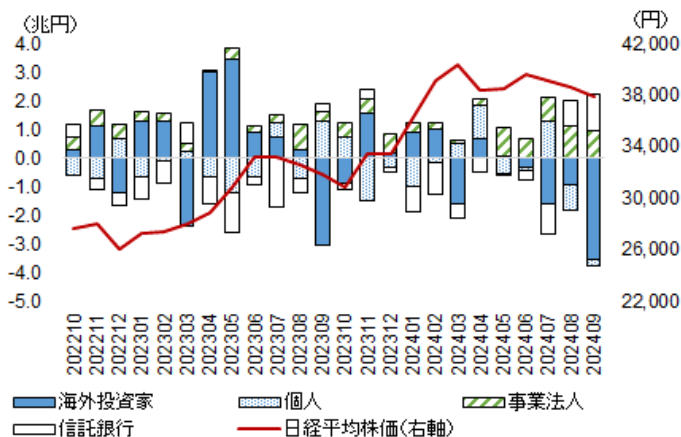
研究員
の眼投資部門別売買動向(24年9月)
～信託銀行が大幅買い越し～

金融研究部 研究員 森下 千鶴

(03)3512-1855 mchizuru@nli-research.co.jp

9月の日経平均株価は、前半は米経済指標を受けて景気の先行き不透明感が高まった。米国の利下げ期待による円高の進行も嫌気され、日経平均株価は2日の3万8,700円から11日には3万5,619円まで7営業日連続で下落した。後半は、18日夜にFOMCで0.50%の利下げが決定されたが、米国経済のソフトランディング期待が高まったことから円安が進行し、日経平均株価は19日に3万7,155円まで上昇した。月末にかけては、27日の自民党総裁選を前に金融緩和路線を打ち出していた高市氏が優勢との見通しから日経平均株価は27日に3万9,829円まで上昇した。しかし、決選投票の結果、金融所得課税強化に前向きな姿勢を示した石破氏が総裁に選出されたため、30日の日経平均株価は下落し、月末は3万7,919円で終えた。このように日経平均株価が推移するなか、信託銀行、事業法人が買い越し一方で、海外投資家が売り越した(図表1)。

図表1 主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移



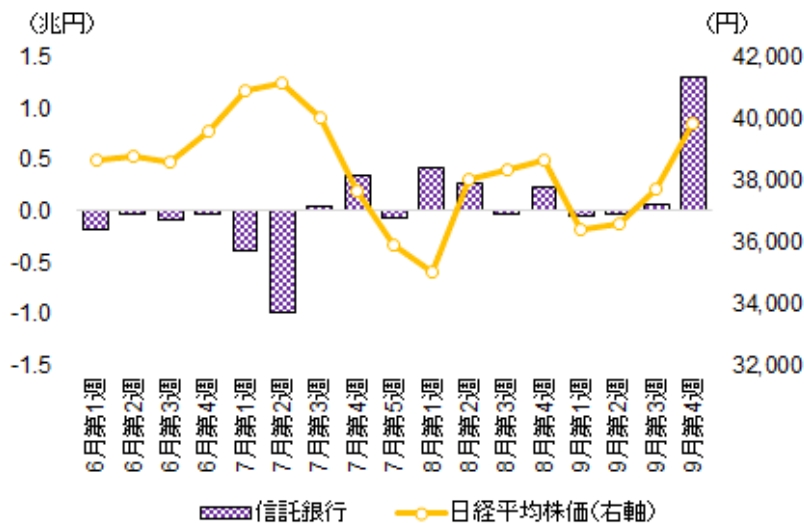
単位:億円 (億円未満切り捨て)		海外投資家	個人	証券会社	投資信託	事業法人	生保・損保	都銀・地銀等	信託銀行	日経平均株価 (円)
月次	202407	-15,905	12,900	97	-393	8,280	-667	-1,672	-10,651	39,101.82
	202408	-9,549	-8,652	19	1,163	11,252	-883	-1,046	9,153	38,647.75
	202409	-35,662	-1,815	-300	3,762	9,316	-2,240	-535	12,972	37,919.55

(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

2024年9月（9月2日～27日）の投資部門別の売買動向を見ると、信託銀行は現物と先物の合計で1兆2,972億円の買い越しと、最大の買い越し部門であった。特に9月第4週（9月24日～27日）は、現物と先物合計で1兆3,003億円と大幅に買い越した。9月第4週は、9月26日の権利付き最終日や9月27日の権利落ち日を含んでおり、年金基金等の配当再投資に伴う買いが入ったことが理由と考えられる（図表2）。

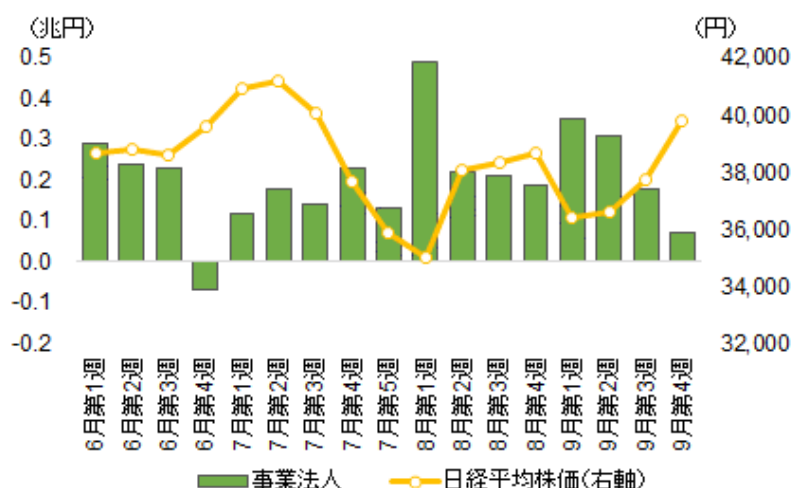
図表2 2カ月連続の買い越し



(注) 信託銀行の現物と先物の合計、週次
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

また、9月は事業法人も現物と先物の合計で9,316億円の買い越しと40カ月連続で買い越した（図表3）。自社株買いの設定金額（TOP I X構成銘柄）は、2024年1月から9月までで12兆円に達している。

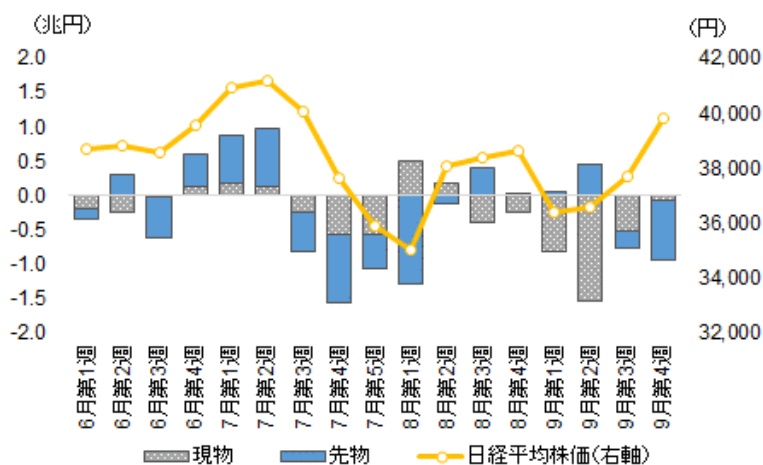
図表3 事業法人は40カ月連続買い越し



(注) 事業法人の現物と先物の合計、週次
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

一方、海外投資家は現物と先物の合計で9月に3兆5,662億円の売り越しと、最大の売り越し部門であった。特に9月第2週（9月9日～13日）は、現物が1兆5,425億円と大幅に売り越された（図表4）。

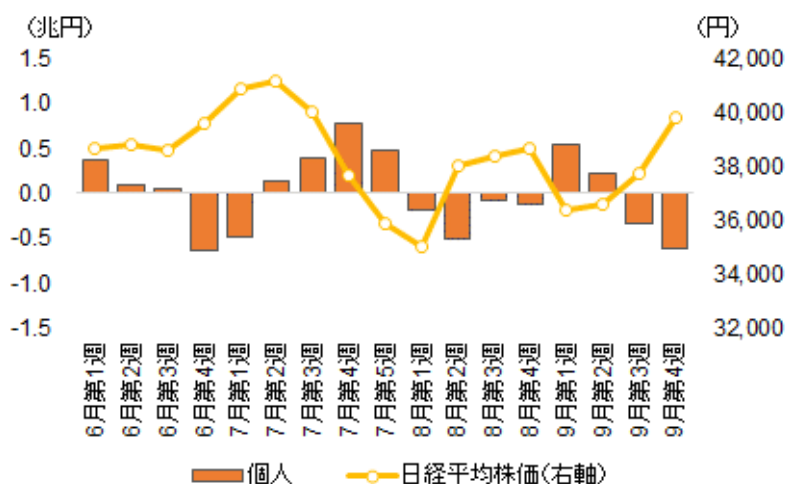
図表4 海外投資家は大幅売り越し



(注) 海外投資家の現物と先物の合計、週次
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

また、9月は個人も現物と先物の合計で1,815億円の売り越しだった。8月同様に、9月も海外投資家と個人がともに売り越すという同方向の動きであった。ただし、週単位で見ると、海外投資家が9月を通して売り越していたのに対し、個人は日経平均株価が約2,000円下落した9月第1週（9月2日～6日）は買い越し、日経平均株価が約3,000円上昇した9月第3～4週（9月17日～27日）は売り越しと、逆張りの動きが健在であった（図表5）。

図表5 個人は2か月連続で売り越した



(注) 個人の現物と先物の合計、週次
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

以上

お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。